



I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS

発行元:早稲田システム開発株式会社 東京都新宿区高田馬場4-40-17 tel.03-6457-8585

✉ maps@waseda.co.jp 🏠 www.waseda.co.jp/

Vol.3 2022.03.31 今回のテーマ | 検索トップと検索結果一覧

今回の内容

日頃は「I.B.MUSEUM SaaS」をご利用いただき、誠にありがとうございます。本ニュースレターの第1号を発行して以降、日常の訪問先でもインターフェイスのリニューアルが話題になる機会が増えました。こうした席でよくかろうのが、「新システムにデータを移す作業は発生するのか」というご質問です。結論といたしましては、画面のデザインだけが変わりますのでデータ移行作業は発生せず、そのままお使いいただけます。まずは、弊社のご説明不足をお詫びいたします。

さて、今回は、検索トップと検索結果一覧についてのご紹介です。現在は別の画面で表示される両者を、新デザインでは見やすく統合。画面の切り替えが減る分、慣れれば快適にお使いいただけるはずですが、最初は「ここにあったボタンは?」と戸惑われるかもしれません。

今回のリニューアルでは一定期間にわたり新旧画面の両方をご用意する予定ですが、上記のような情報不足による現場の混乱を防ぐための対策についての検討も始めております。たとえば、エリアなどでグループ分けした上で新画面の導入を段階的に実施すれば、その間に順次、ご希望の館に弊社サポート担当の説明会を開催できるかもしれません。画面や日程と同様にまだ流動的ですが、ご移行についても可能な限りサポートできるよう議論を続けておりますので、計画が具体化し次第、改めてお知らせします。

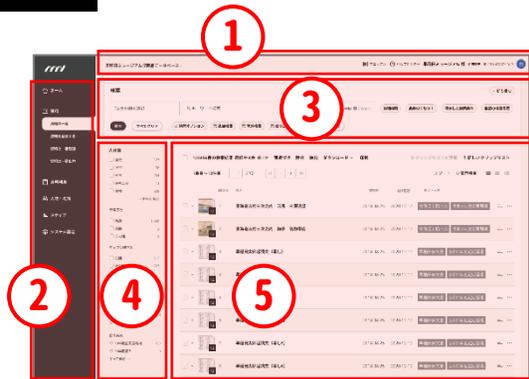
では、今回の本題「検索トップと検索結果一覧」について、詳しくご説明いたします。

I.B.MUSEUM SaaSリニューアル情報 EXPRESS 発行予定

Vol.1	2022/1/31	リニューアル計画概要とログイン画面	
Vol.2	2022/2/28	デザインコンセプトとホーム画面	
Vol.3	2022/3/31	検索トップと検索結果一覧	Now!
Vol.4	2022/4/30	詳細画面の特徴	
Vol.5	2022/5/31	データ登録方法	
Vol.6	2022/6/30	資料利用	
Vol.7	2022/7/31	人物・名簿とメディア	
Vol.8	2022/8/31	公開設定	
Vol.9	2022/9/30	項目設定	
Vol.10	2022/10/31	帳票設定	
Vol.11	2022/11/30	ユーザ管理・一括処理	
Vol.12	2022/12/31	移行方法と並行運用について	
Vol.13	2023/1/31	総集編 (Vol.1からVol.12までを1冊に)	



各部の名称



「リニューアルexpress Vol.3」では、画面の各部を以下のように呼びます。

- ① 上部バー
- ② グローバルナビゲーション
- ③ 検索パネル
- ④ サイドバー
- ⑤ メインエリア(検索結果)

リニューアル情報④ 検索トップ

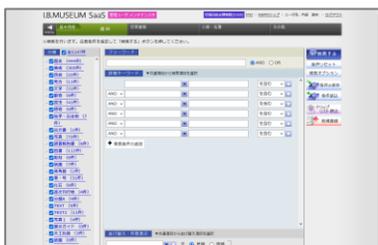
検索結果一覧との一体型画面で、
結果を見ながら検索を繰り返せるように

前号でご案内いたしました通り、新デザインではホーム画面から直接、簡易検索を実行できるようになります。現行の画面デザインの検索作業では、検索条件を入力するパネルが全面表示されており、検索実行後に表示される結果の一覧は別画面で閲覧する仕様となっています。たとえば、「佐藤さんが制作した作品(制作者=佐藤)」を意図して「佐藤」というキーワードで検索すると、「佐藤学芸員が登録したデータ(登録者=佐藤)」がヒットしてしまったため、詳細検索で検索項目を制作者としてもう一度検索。このように、検索結果が意図したものと異なること気付いた場合は、原則として検索画面に戻り、再度条件を指定する必要がありました。

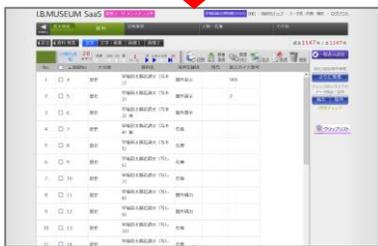
今回のリニューアルで刷新される検索画面では、条件入力用のパネルの下に検索結果一覧画面が表示されるレイアウトを採用しました。上記のように満足のゆく検索結果が得られなかった場合も、その場で検索条件を見直して実行し直すことができますので、作業がグッとスピーディに。入力・実行用のパネルとヒットした資料データの一覧をひとつの画面の中で見比べながら、素早く最適な検索結果を得ることができます。



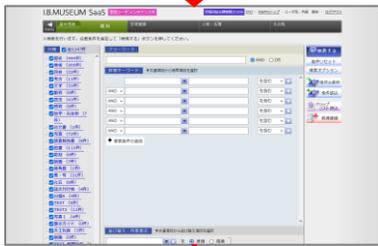
【現行デザインにおける「検索しなおし」】



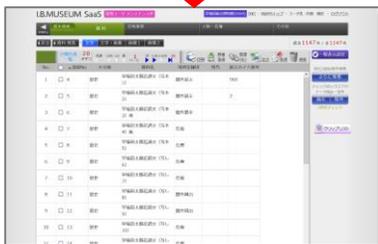
①
検索条件を入れて
検索



②
検索結果が想定と
異なっていたので
検索のやり直しが必要に

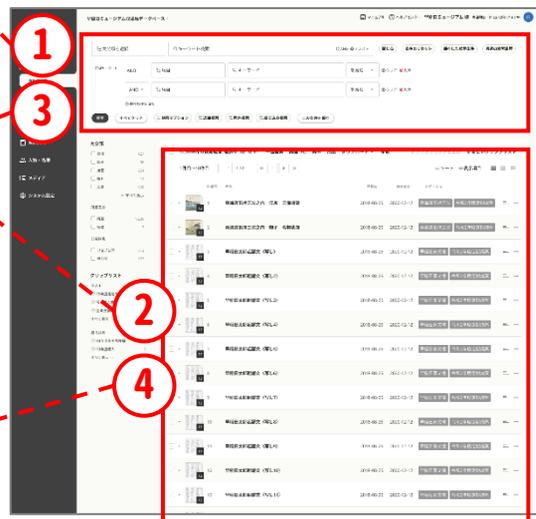


③
もう一度
検索条件を入れて
検索



④
もう一度
検索結果を
確認

【新デザインにおける「検索しなおし」】

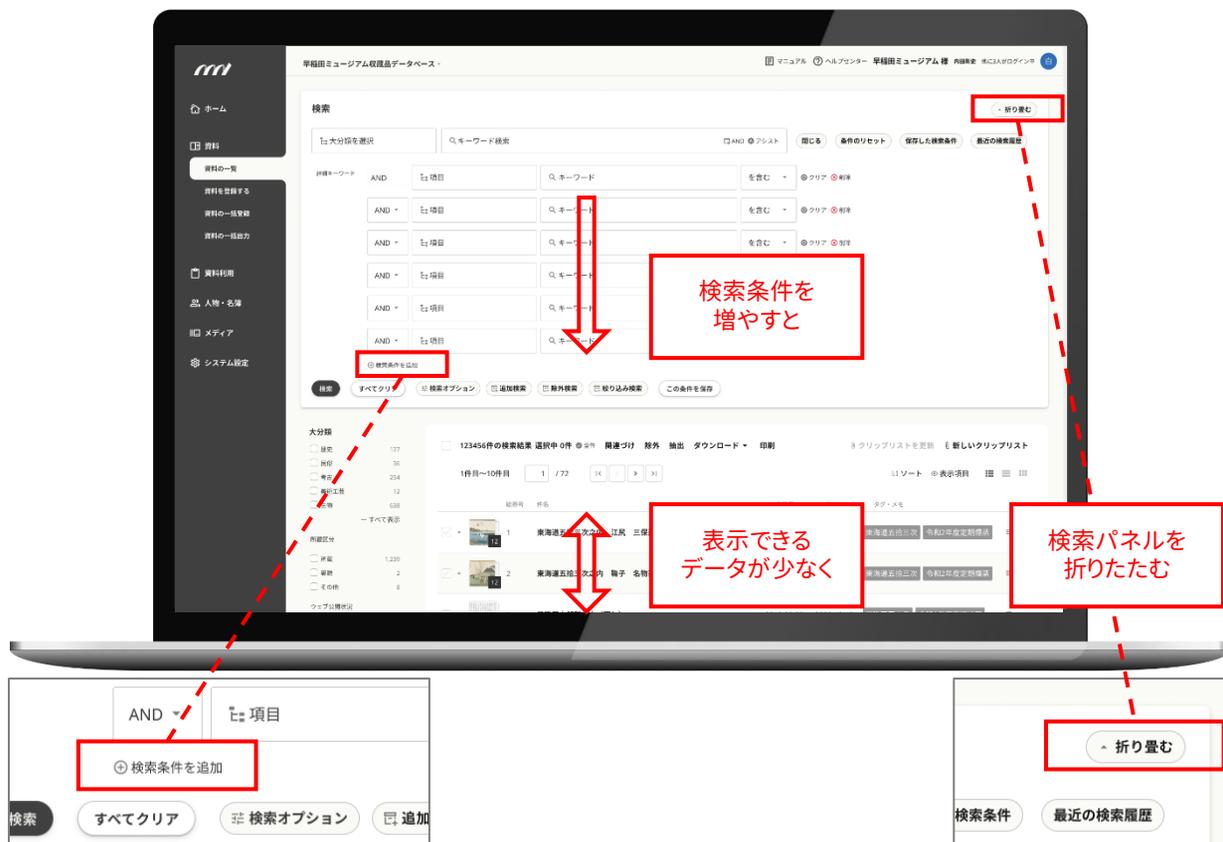


新デザインでは
画面を切り替えることなく
検索結果を確認しながら
検索しなおしができる

検索条件を増やしつ、結果一覧の見やすさも確保。 「追加検索」なども同じ画面で操作できます。

掛け合わせる検索条件を増やせるのは、現行の画面と同様です。増やすと入力パネルのスペースが下方方向に伸びていきますので、その

分、検索結果一覧側の表示エリアが小さくなります。この画面例では、見えているのは2件だけですね。そんな時は、右上の「折り畳む」ボタンをクリック。これで、一度にたくさんの検索条件を設定しても、検索パネルと検索結果一覧を常にバランスよく表示できます。



最初の検索で得た結果に対してさらに検索条件を追加したり、ある条件の結果を除外したり、新たな条件で絞り込んだり。多様な検索機能は今回のリニューアル後も健在で、さらに使い勝手が良くなります。たとえば、まず「佐藤家文書」の検索結果のリストに対して除外・抽出など加工を施し、その後、同様に「鈴木家文書」の一部を同じリストに加えるという作業をイメージしてください。こうした高度な検索機能は現行画面でも使えますが、検索パネルと検索結果一覧が

分かれているため、作業を繰り返していると現在の検索条件が分からなくなることがありました。

その点、両者がひとつの画面に統合された新デザインでは、「資料群=佐藤家文書」「資料群=鈴木家文書」という2回の検索で使った条件のすべてが上下に並んで表示されることになります。このように、使用する条件が多くなってもひと目で確認することができますので、キーワードと検索結果のリストを見比べたり、そのまま次の検索に移ったりと、常にスムーズな作業環境を確保できます。

【追加検索の画面イメージ】



現行の検索機能はすべて踏襲し、 より使いやすいレイアウトに

今回のリニューアルでは、現行画面で搭載されている機能は「原則としてすべて引き継ぐ」という大方針のもとで設計を進めています。その上で、できるだけその作業の終端で自然にマウスポインターが

行き着く場所の付近に配置するなど、ボタンなどのレイアウトも工夫しています。

たとえば検索ボタンなら、キーワード入力を終えて条件を足す「検索条件を追加」をクリックするという一連の動作から自然につながる位置に設置。検索方法にオプションを加えるためのボタン群についても、検索キーワード入力欄の直下に配置しました。また、機能はそのまま引き継ぎながら一部の用語を見直すなど、初めてシステムを操作される方も分かりやすくお使いいただける環境整備に努めています。

【現行デザインの検索トップ】



【新デザインの検索トップ】



- ① フリーワード検索 | すべての登録データに対して、入力されたキーワードで検索を実行します。
- ② 詳細キーワード検索 | 現行デザインでは、はじめから6件の検索条件入力欄が表示されていますが、検索結果一覧の表示エリアを確保するために2件に変更。入力欄を増やしたい時は、すぐ下の「条件を追加」ボタン⑨をワンクリックするだけです。
- ③ 検索ボタン | 現行デザインでは右上にレイアウトされていますが、検索条件を追加しながら上から下へと入力していくことを考えて、一連の動作の終着点となる位置に変更します。ほかのボタンとは見え方も変えて目立つように配慮。
- ④ 検索リセット | 入力した検索条件をリセットします。リニューアル前後で機能の違いはありません。
- ⑤ 検索オプション | 検索方法のオプションを選択・設定するボタンです。条件入力の際に使う機能ですので、キーワード設定エリアのすぐ下にレイアウトし、目線もマウスも移動しやすく。
- ⑥ 検索条件の保存 | 入力した検索条件を再利用するために保存する機能です。いま表示されている検索条件をそのまま保存するという機能の内容を分かりやすく表現し、初めて操作する方にも親しみやすくお使いいただけるよう配慮。

- ⑦ 条件読込 | 保存しておいた検索条件を呼び出す機能です。こちら、ボタンの名称を「条件読込」から「保存した検索条件」に変更します。
- ⑧ この入力欄の検索条件をクリア | 「クリア」は入力内容を白紙にするボタン、×は行自体を削除するボタンです。

【新デザインの大分類選択】



- ⑨ 検索条件追加 | 現行デザインの「検索条件の追加」を、新デザインでは「検索条件を追加」に。助詞ひとつで機能の内容をイメージしやすく。
- ⑩ クリップリスト読込 | 保存済みのクリップリストを呼び出すボタン。現行デザインでは画面右側にレイアウトされていますが、機能の性質が異なりますので、検索結果一覧側のパネルにお引越し。
- ⑪ 新規登録 | 検索の動作とは異なるため、新デザインでは別メニューとしてナビゲーションボタンに配置しました。
- ⑫ 最近の検索履歴 | 今回のリニューアルで追加を検討中の新機能のひとつ。現在は未定です。
- ⑬ 大分類選択 | 検索時に大分類を選択するボタンです。機能面には変わりなく、何も選ばなければ全分類の横断検索を実行します。デザイン面では、ボタンやリストを見やすく改善。分類の選択では、画面内でモーダル(子画面)が立ち上がり、リンクとなっている分類名からは次の階層を直接展開できます。

リニューアル情報⑥ 検索結果一覧

画面全体を広く使って情報を多く表示。 スペースの有効活用で「時短」を実現します。

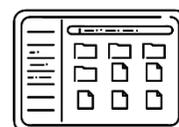
検索結果の一覧画面は次のページのように表示されます。画面の左右幅をフルに使うことで、より多くの情報量を表示できるようになりました。

その好例が、左にあるサイドバーです。たとえば、「クリップリスト」に保存されているリストは専用のボタンをクリックして閲覧する仕様でしたが、今回の新デザインではよく使うリストのタイトルをトップ画面に直接表示。ここから素早く開くことができます。

また、検索結果一覧に表示されたデータから、その場で新しいクリップリストを作成できるボタンを新設。併せて、データの複製や削除など数種類の動作一覧を呼び出すアクションメニューのボタンも追加するなど、トップ画面では「検索直後に取り行動」を強く意識して構成しています。

- ① 表示切替ボタン | 現行デザインでは表示方法をテキストで説明していますが、新デザインではアイコンに変更。小さい画像のタイル表示「画像2」は一般的なサムネイル「画像1」に統合しています。

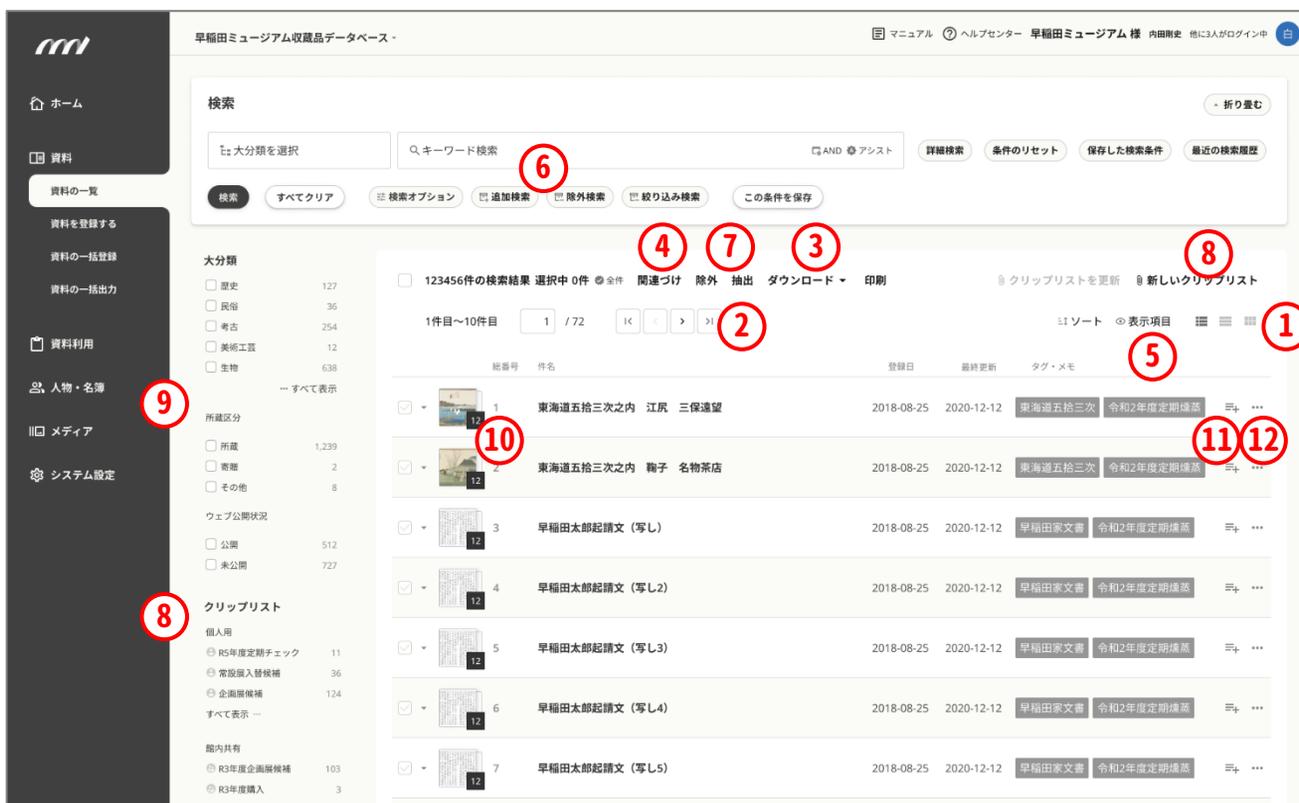
- ② ページ送りボタン | 検索結果が複数ページにまたがる際に有効となります。ページ番号を指定できるのは現行デザインも同様ですが、入力欄を視認しやすいようハコ型の囲みを設けました。
- ③ ダウンロード・印刷関連のボタン | 現行デザインの「出力」を「ダウンロード」に変更。複数デザインをまとめてダウンロードする「画像取得」も、同じボタンから行える仕様に。
- ④ 関連付けボタン | 一覧上に表示されたデータから、関連付けを登録したい資料にチェックを付けてクリックすると、データ同士の関連付けを相互に登録。機能的には現行デザインから変化はありません。
- ⑤ 表示設定 | 検索結果一覧に表示する項目を、ユーザごとに変更できる機能。こちらも現行の画面と機能は同じです。
- ⑥ さらに検索 | 前述の通り、検索パネル側にまとめられています。
- ⑦ 抽出・除外ボタン | チェックを入れたデータを一覧からまとめて除外したり、逆にチェック付きだけを残したりしながら、検索結果一覧をリストとして編集するためのボタンです。機能的には従来と同じです。



【現行デザインの検索結果一覧】



【新デザインの検索結果一覧】



⑧ クリップリスト | 検索結果一覧、またはその編集後のリストに名前を付けて保存し、後で呼び出して再利用できる機能です。現行デザインではリストの保存に加えて呼び出しも専用のボタンから行いますが、新デザインでは、左のサイドバーにクリップリストの名称を一覧表示。画面を切り替えることなくリストを呼び出せます。保存する際も、「新しいクリップリスト」という名前のボタンで素早く実行。なお、今回のリニューアルで、スタッフ全員で共有できるリストと個人専用のリストを分けて管理できるようになります。

⑨ ファセット | 後述します。

⑩ 画像枚数の表示 | 一覧のサムネイル画像には、現在登録されている画像枚数をバッジで小さく表示する機能を追加。登録状況を可視化しました。

⑪ クリップリストに追加 | 保存されているクリップリストに対し、表示中の資料を個別に登録することができます。

⑫ アクションメニュー | 「そのデータを複製する」「削除する」など、次に移る動作のメニューを開きます。これまで詳細画面から行っていた操作のいくつかが一覧画面から直接できるようになります。詳細については現在検討中です。

「ファセット」の採用、検索パネルの固定。

検索まわりでは、さらなる充実を検討中。

前述のように、新デザインでは、大分類の選択は検索パネルの先頭から行います。クリックすると表示されるモーダル(子画面)で大分類を選ぶことができます。その一方、検索結果一覧の画面左のサイドバーにも大分類が表示されています。同じ機能が2か所にあるように見えますが、これは「ファセット」と言われる別の機能です。検索パネル内の大分類は、「この大分類で検索する」という検索条件。「ファセット」は、右に表示されている検索結果一覧に対し、チェックを付けた大分類でさらに絞り込んでいくためのものです。

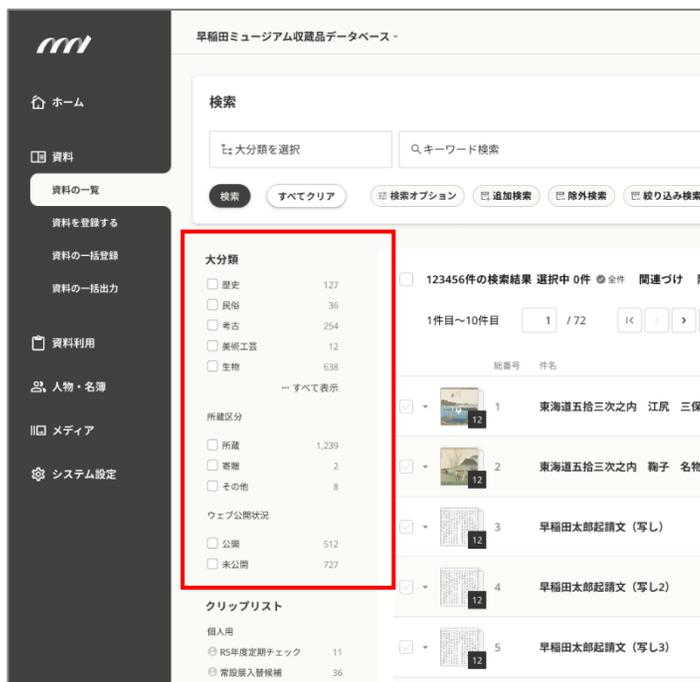
ファセットとは、「切った断面」という意味。石の輪切り、地層の断面などを想像すると分かりやすいのですが、検索機能にファセットを搭載すると、切り口=絞り込む条件ごとの「断面」が見られるようになるわけです。

この機能は、「ジャパンサーチ」ですでに実装されています。たとえば、右下の画面は「富士山」のキーワードで検索し、表示を文字画像一覧に切り替えた画面です。この時、左側に出てくるのがファセット。ここでは、利用条件のファセットが先頭に表示されていて、教育利用が1,075件、非商用利用が995件...といった情報が読み取れます。ここでチェックを付けると、検索結果がその切り口で絞り込まれるという仕組みです。

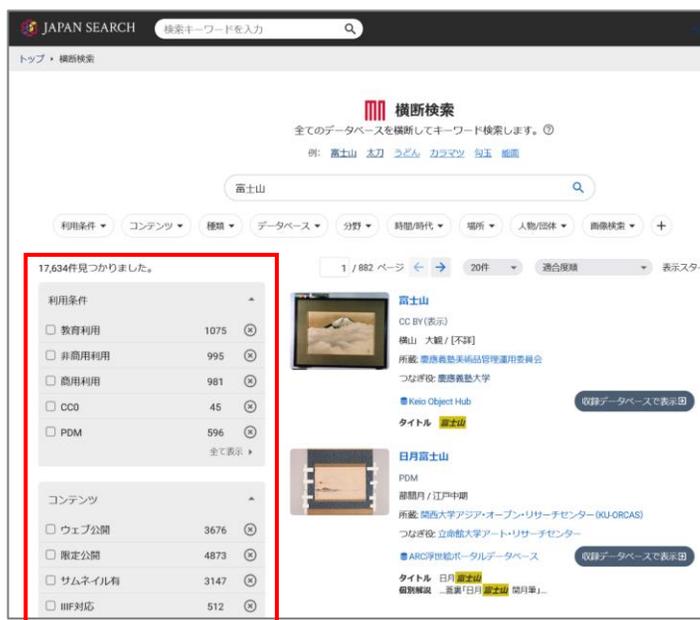
今回のリニューアルでは、ファセットは先々搭載する方向で検討していますが、ひとつ課題が。今回掲載した画面例では、仮に「大分類」のほか「所蔵区分」や「公開・非公開」を用意していますが、ここにどんな切り口のファセットが求められるのかについて、現段階では調査が十分ではありません。現状では「リニューアルを完了し、新しいインターフェイスに慣れていただいた時点で広範なヒアリングを行い、その結果から仕様の詳細を決定する」というステップを踏むべきとする意見が有力です。

実際に搭載するかどうかは検討中ですが、実現すれば一段と快適に。詳細は追ってお知らせいたします。

【新デザインの「ファセット」】

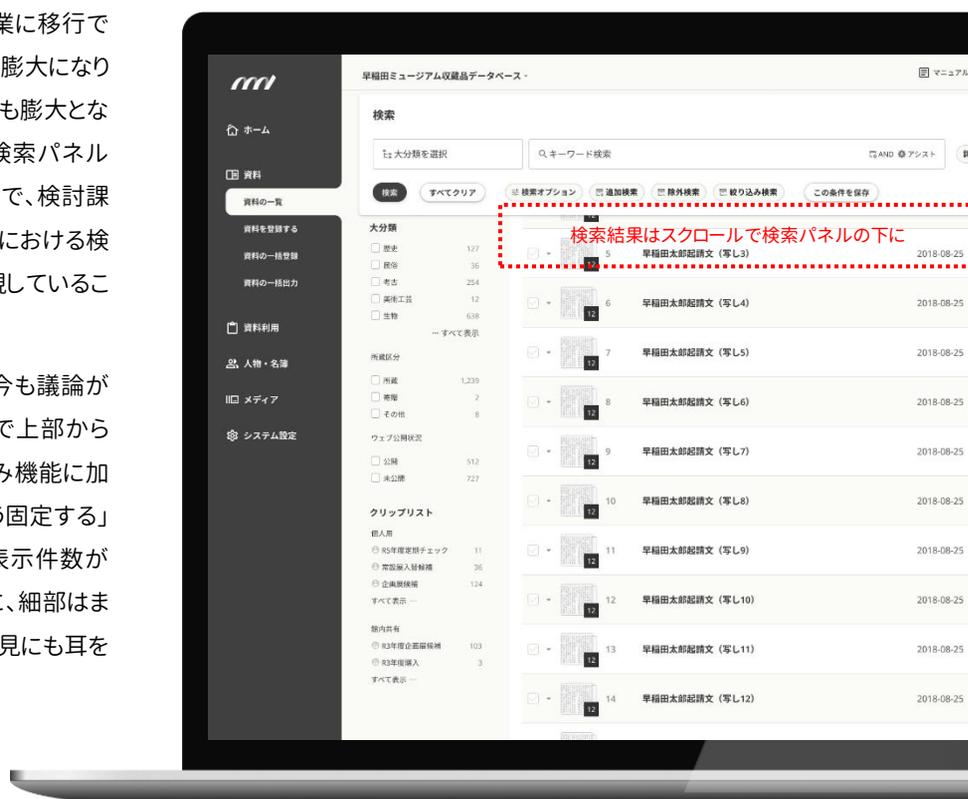


【ジャパンサーチの「ファセット」】



作業全体を俯瞰的に捉え、すぐに次の作業に移行できる、再検索を実行できるように。データが膨大になりがちな収蔵品管理システムでは検索結果も膨大となるため、条件の変更や絞り込みに備えて検索パネルは常に手の届く位置に…。まだまだ開発中で、検討課題も多い段階ですが、今回のリニューアルにおける検索画面の刷新では「操作性の改善」を重視していることがお分かりいただけるかと思います。

そんな方針のもと、いくつかの要素では、今も議論が続いています。たとえば、画面スクロールで上部から検索パネル消えることに備えて、「折り畳み機能に加え、パネル部分自体が常に画面に入るよう固定する」という案も。ただし、この場合はデータの表示件数が少なくなるというデメリットも…。このように、細部はまだ検討が続いておりますので、皆様のご意見にも耳を傾けながら仕様を確定してまいります。



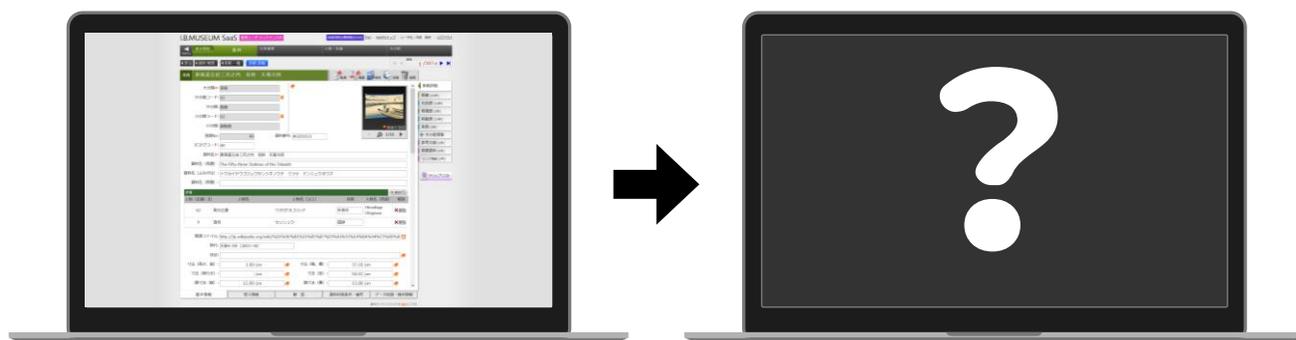
今回のまとめと次号のお知らせ

ここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。今回ご紹介いたしました検索まわりは、データベースとしてのご利用が基本となるI.B.MUSEUM SaaSでは、頻繁に目にし、操作する画面となります。そこで今回は、前号よりボリュームを割いてご説明いたしました。

今回の内容も開発段階のもので、一部の機能や仕様については現在も細部が固まっていません。前期・後期に導入時期を振り分

けての対応となりますが、冒頭の通り、移行の方法や日程についても詳細は未定です。現場の混乱を防ぐ対策の確保に加え、最後にご紹介したファセットの追加や検索パネルの固定の是非など意見や賛否が分かれる機能・仕様が残っていることことから、開発チームでは「途中の段階でヒアリングを実施すべきかもしれない」という意見も浮上しています。

いずれにしても、まだまだ長い道のり。もしもご意見をうかがう機会がありましたら、ぜひご忌憚なくお聞かせいただければ幸いです。次回は、システムの基盤とも言える資料詳細画面。こちらも大幅な改善を予定しておりますので、ぜひ楽しみに。



- ※ 掲載スケジュールは、すべて発行時点での予定です。開発の状況により変更となることがございます。
- ※ 掲載のリニューアル画面は開発中のものです。